

夢っくすニュース

No.3

2002年10月1日

UMEX NEWS **UMEX NEWS** UMEX NEWS

Welcome to IUJ and UMEX!!

ようこそ 国際大学へ そして 夢っくすへ

— 新入生歓迎イベント開催 9月14日-15日 —

9月は国際大学の新学期です。今年も100名近い留学生が入学しましたが、その大半は初めて来日した人たちです。そこで、イベント部では、来日間もない留学生たちの大和町での新たな生活のスタートを応援しようと、新入生歓迎行事を計画しました。9月14-15日の歓迎イベントには、延べ約35名の会員と70名をこえる留学生が参加しました。

詳細は大平智子さんのレポートをご覧ください。大平さんは情報高校5期生で、現在、浦佐小学校と浦佐中学校の外国籍児童・生徒の日本語指導を担当しています。「家が国際大学に近かったので、保育所の頃から大学へ遊びに行っていて自然に英語も覚えました」とのこと。

人が人種 肌の色 に最初に気づくのは3歳から4歳で、その時期の体験が、将来の異文化適応に大きな影響力をもつと言われます。大和町の子ども達は、保育所から外国籍の子ども達と一緒に学び、遊ぶことを通じて、これまでの世代とは違った国際感覚を自然に身につけて育っているのかもしれない。

多くの先人の方々が国際大学や国際情報高校を大和町に誘致されたご努力が新しい世代の誕生によって報われつつあるのかもしれない。夢っくすはそうした新しい世代の活躍の場の一つになりたいと思います。



新米登場！「一期一会」に感動

大平智子

皆さんはじめまして！ 夢っくすの仲間に入ったばかりの新米です。どうぞよろしく！

さて、私は早速9月14日・15日の新入生歓迎イベントに参加させていただきました。初日、9月14日はインタビュークイズによるアイス・ブレイキングで始まりまして。大和町や新潟県についての質問や魚沼の方言を聞く問題があり、留学生は夢っくすメンバーにインタビューしないと回答できない仕掛けです。英語と日本語が飛び交ってサロン内は大興奮。インタビュークイズですっきり打ち解けたあと、5台のUMEX号に分かれて町内のミニ・ドライブに出発！

春には桜のきれいな場所として紹介された大崎ダム、裸拝し合い祭りの毘沙門堂、それから越後ワイナリーへ行きました。ここで私は、町内のことなのに曖昧に理解していることが多いことに気づいて反省。身近なことを改めて勉強する良い機会になりました。

2日目はみんなの大好きなバーベキューパーティ！なんと、70人以上が参加しました。やっぱりお肉を囲んでみんなでワイワイやるのは最高ですね。しかもこの自然の中で。前日のクイズの全問正解者に賞品があたる抽選会も大いに盛り上がりました。

夢っくす会長代行の井口義夫さんが歓迎スピーチのなかで話された『一期一会』という言葉に胸がジーンとききました。歓迎会は、私たちと世界中からやってきた学生さん、学生さん同士、夢っくす会員同士の素敵な出会いの場となりました。それが私にとっての特別な土地、「大和町」であったことを誇りに思います。「縁」あってここに集まってきた人たちと、心地よい時間を過ごせるように皆でユニークで、クリエイティブな活動ができればいいなと思います。これを読んで、興味を持った方ももう引力に引かれているはず！一緒に一期一会の意味を感じてみましょう。

最後になりましたが、企画、準備・片付け等をして下さったみなさん本当に有難うございました。大変おつかれさまでした。



トピック

1面

ようこそ国際大学へそして夢っくすへ
新米登場！「一期一会」に感動.....大平智子

2面

夢っくす活動報告 ジャパニーズナイトに協力
夢っくす「異文化理解講座」

3面

英会話教室&日本語教室 稲刈り体験ツアー
世界に広がる夢っくすネットワーク

4面

夢っくす対談.....秋山武雄(大和町町長) 島野卓爾(国際大学学長)

6面

ホストファミリー募集中 ホームステイは家族と楽しむ国際交流...小幡美智代
日本語交流員奮闘記...大平悦子 夢っくす会員ただいま114名

7面

夢っくす会員の海外リポート...鈴木なつ子・猪俣真紀子 夢っくすサロン日程
夢っくす活動予定表 10月-12月

8面

第2期夢っくす英会話教室の受講生募集中
「日本語の教え方講座」受講者募集 英文ポスター作成講座

夢っくす 活動報告



昨年12月に準備会を発足させた夢っくすは、5月26日の設立総会を経て本格的に活動を開始しました。7月1日には活動の基礎単位となる6つの部会が発足し、各部会担当者を中心とした活動が軌道に乗りつつあります。

夢っくすの活動の多くはサロンでの留学生や会員同士の何気ない会話からヒントを得て企画されてきました。夢っくすは、参加するだけより、むしろ実施にいたるプロセスの中に本当の楽しさがあります。

部員募集中

興味のある方は下記の担当までご連絡ください。

サロン部会	小幡美智代	02579-2-6375
イベント部会	星野 明広	090-4549-6955
広報部会	畔上 哲史	070-5083-8465
研修部会	井口 義夫	090-5329-8234
多言語部会	外国語担当：柳瀬陽子	02579-2-0888
	日本語担当：大平悦子	02579-2-9840
事業部会	高橋 明宏	025-777-3011

ジャパニーズ・ナイトに協力

「国際大学にはアセアン・ナイトやアフリカン・ナイト、サーク・ナイトがあるのにジャパニーズ・ナイトがないのは変だよ」。日本人学生のこんな雑談から、実現したのがジャパニーズ・ナイトです。

日本人学生で対応できない習字や絵手紙、墨絵等の指導には、夢っくすネットワークを通じて次の方々からご協力いただきました。勝又金吾様(六日町京岡)、佐藤和様(小出町佐梨)、関初枝様(大和町浦佐)、櫻井晴美様(大和町九日町)、今村正子様(小出町佐梨)、井口永様(小出町火渡)ほか。ありがとうございました。



第1回 「サングラスをはずしませんか？ 真の相互理解を求めて」

日 時：2002年6月5日(水)
午後6時半から8時半
会 場：大和町公民館
2階大会議室
講 師：近藤大博先生
(日本大学教授)



講演の概要と感想

国際交流の機会や海外ニュースに接する機会が増え、外国・外国人と日本・日本人の相互理解は深まるはずだが、溝は深まっているように見えます。世界各地で対立や衝突も起きています。様々なトラブルの原因を外国・外国人に求める前に、自らが正さなくてはならないことはないのでしょうか。

日本人は外国人がカタコトでも日本語を話すと「すごい」と誉めてしまいますが、実は、誉められた方は馬鹿にされたように感じることもあるといいます。外国人の中には、初対面の日本人の身元調査的な質問の連続に辟易している人もいます。日本語を話し日本料理が好きだというと、日本が好きだと思いついてしまう、といった具体的な事例紹介に思わず頷いてしまいました。

善意が悪意にとられること、無意識のうちに偏見をもち、無自覚的に差別をしていることもあります。私たちが、「アメリカ人は・・・」とか、「人は・・・」というときのイメージはどのように形成されてきたのでしょうか。映画や文学を通じて形成されたものであることが多いといいます。

真の相互理解を深めるためには、人と人が直接的に出会い、語り合うことがこれまでに以上に大切になってきているようです。私たちに、国際大学に集う50カ国以上の留学生を通じて、無意識のうちに形成されたイメージと現実との調整が可能です。「思い込み」を外すことから相互理解、国際理解は始まるのかもしれません。

第2回 「イスラームという生き方 国際理解へ向けて」

日 時：2002年6月17日(月)
午後6時半から8時半
会 場：大和町役場
3階研修室
講 師：小杉泰先生
(京都大学教授)



講演の概要と感想

イスラーム諸国との交流が増え、ニュースでもよく取り上げられるようになり、また、身近にムスリム(イスラーム教徒)と接触する機会が増えてきました。でも、イスラームについては、よく分からないというのが一般的な印象ではないでしょうか。

実は、国際大学にはイスラーム諸国からの留学生がたくさんいます。浦佐小学校の外国籍児童の半数以上はムスリムです。このため、ラマダン(断食月)の期間には給食時間に特別な対応が必要になりました。

小杉先生のご講演は、アラビア語から欧米を經由して日本に入ってきた言葉(砂糖やアイスクリームなど)や挨拶といった身近なところから、生活規範となっているイスラームは、私たちのもつ宗教概念とは違ったものであること、イスラームはムスリムたちの生き方や文化として理解することが大切だということ、とても興味深いものでした。

25年後には世界の4人に1人がイスラーム教徒という予測もあるそうです。また、グローバル化が加速させている世界的な規模での人の移動と日本も無関係ではありえません。大泉町(群馬県)のように人口の12%が外国人という地域も生まれています。そういった社会の流れを前提にすると、私たちは「問題が表面化」する前に、多様な人々と共に暮らすための社会システムの模索を開始し、さまざまな文化の違いを理解するための努力を続けることが大切です。

夢っくす「異文化理解講座」

「身振り手振りで何とか・・・」とはいつても、言葉でなければ伝えられないことがあります。留学生や外国の方々には日本語を勉強してもらい、私たちも英会話を勉強して、お互いのコミュニケーションを円滑にしようと、7月から初級英会話教室と日本語教室を開講しました。留学生や外国人への日本語学習支援と、会員の皆さんへの外国語学習支援は、夢っくすの中心的な活動の一つです。試行錯誤ではじめた英会話教室受講者の声を集めてみました。

「普段、英語を話す機会がまったくありませんから、武藤先生の課題に恥ずかしさなど忘れて必死になっているわたくしであります。たぶん皆様もそうなんだろうな。とても心地のよい空間です。」(大和町・MTさん)

「先生の大きな声につられて、発音していたらアゴが疲れてしまいました。普段使うことが無いのでなかなか上手くいきませんが、歓迎イベントで早速習った事から実践してみましょう。学生さんは日本語が始めてだと思いますし、こちらも初心者で丁度いいのではないのでしょうか。まず、トライしてみましょう。」(大和町・YIさん)

「教室があった日はEnglishが頭から離れず、帰宅して愛犬ペペにCome here!! といっていました。ペペはきょんとして来る気配がありません。それもそのはず、いつもなら「来い!」と言っているんですからねえ。私が帰って来たことに大喜びのペペはキッチンマットにおしっこしてしまいました。思わず娘と一緒に頭をかかえOh my God!! そのあと爆笑でした。英会話教室もあと1回。正直いって最初は「どうしよう」という気持ちが強かったんですが、今は楽しいです。」(湯之谷村・HH)



英会話教室&日本語教室

<英語の得意な会員さんからの激励メッセージ>

It seems that you are having a hard time to learn English. But do not worry. To learn English is good for not only you but also your family or children because if other people see you speaking English well, then they will copy you and try to learn English more. All you have to do is to attend any opportunity for you to contact or meet English speaking persons and try to communicate with them as much as possible so that you will get used to understand what the English speaking persons are trying to say. Make yourself tuned into English way first and be interested in it. And also try to enjoy English in your own way without being shamed.

稲刈り体験ツアー

この企画は7月の留学生との交流会での会話の中から生まれました。留学生から「自分たちの国はまだ農業国なので日本の農業に興味がある」という発言があり、「それじゃあ、秋になったら稲刈りをやろう」という話になりました。

それから2ヶ月。このときの約束を学生も会員さんも覚えていて、9月11日に打合せを開き、実施日は9月22日、訪問先は守門の渡辺洋子様のお宅に決まりました。総勢29名が朝9時に大学に集合し、6台の車に分乗して守門に向かいました。10時過ぎに到着し、10アールの田んぼを1時間半ほどで手刈りしました。

作業の合間に「灌漑はどうしているんだ」、「刈った稲はこの後どうするんだ」、「日本では何回収穫できるんだ」・・・と質問が絶えません。数名を除いて学生たちにとっては初めての稲刈りです。大勢の学生を暖かく迎え入れてくださった渡辺ご夫婦には感謝の気持ちでいっぱいです。

昼食後は、渡辺様の庭で鯉を見たり、栗拾いをしたり、中にはゲートボールのグループと仲良くなる者もいて、キャンパスライフでは味わえない「日本」を楽しんだようです。また、帰りには、須原の玉川酒造で雪見見学と10種類のお酒の試飲をさせていただきました。販売促進には役立つ団体でしたが、快く受入れて下さった玉川酒造の皆さまにお礼申し上げます。



世界に広がる夢っくすネットワーク

8月27日付 夢っくす学生ボランティア野村幸平さん(アメリカ)から届いたメッセージ

Hello dear UMEMEX members! How are you? This is Kouhei NOMURA from Syracuse, New York. I arrived at here just two days ago and finally I succeeded to get the permission to use the computer and Internet.

Today is the first day of the fall term in Syracuse University. There are so many students and staffs(more than 15,000!!). I cannot compare this situation with the IUJ's environment. And, weather is not humid but FINE and comfortable! The campus is so amazingly huge! There are more than 20 buildings for students! I am looking forward to studying at here. Actually, I have no class today.

I read the messages below. Some new projects are started! I am very happy to see these messages because I can feel that the UMEMEX activities are becoming bigger and bigger!

See you next time and please do not forget about me (Hahahah...). I am making efforts not to gain weight.

Sincerely, yours,

Kouhei NOMURA

8月6日付、2002年卒業のズキンさん(シンガポール)から届いたメッセージ

Hi,
How are you? Did you have your summer vacation? I am OK in Singapore. I went back to work in the government. I am with an agency under the Ministry of Trade and Industry in charged of helping Singapore companies venture overseas (シンガポール国際企業発展局).

I really enjoyed UMEMEX meetings. Thank you very much. A group of UMEMEX members came to Singapore last week. It was so nice meeting up with them.

All the best to you!

Tze Khin Chung

8月20日付、1999年卒業のアミールさん(オーストラリア)から届いたメッセージ

Dear UMEMEX staff
Let me first take this opportunity to congratulate you for starting this innovative program. I came to know about this program by my IUJ time friend Akihiro Hoshino. Although, similar sounding program do exist on IUJ campus but there is always a lack of coordination aspect. I really enjoyed reading range of activities organized by the UMEMEX. I look forward to participate in one of your activities on my visit to IUJ.

Good luck with your efforts.

With kind regards

Aamir A. Arain (Dr.)

夢っくす日誌

(2002年4月~9月)



- 4月 9日 母国紹介4 (シンガポール)
- 4月 14日 日本文化デー
- 4月 17日 設立準備会
- 5月 9日 設立準備会
- 5月 10日 母国紹介5 (カナダ)
- 5月 15日 設立準備会
- 5月 21日 茶道教室
- 5月 24日 母国紹介6 (韓国)
- 5月 26日 設立総会/設立記念の集い
- 6月 1日 ジャパニーズ・ナイト
- 6月 5日 異文化理解講座
(近藤大博先生)
- 6月 9日 パソコン教室
- 6月 13日 第1回運営委員会
- 6月 14日 母国紹介7 (カンボジア)
- 6月 14日 華道教室
- 6月 17日 異文化理解講座
(小杉泰先生)
- 6月 18日 茶道教室
- 6月 18日 母国紹介8 (ギリシャ)
- 6月 21日 新潟県市町村国際交流担当
者研修会で事例報告
- 6月 28日 第2回運営委員会
- 7月 1日 部会発足会議
- 7月 11日 第3回運営委員会
- 7月 16日 第1期英会話教室(夜の部)
6回 ~ 8月27日
- 7月 26日 日本語教室開設
- 7月 27日 I E P学生歓迎ティーバー
ティー&町内ドライブ
- 7月 28日 銀山平雪祭りに参加
- 8月 7日 第4回運営委員会
- 8月 10日 かわら版第1号発行
- 8月 20日 第1期英会話教室(昼の部)
6回 ~ 9月6日
- 8月 29日 第5回運営委員会
- 8月 30日 『月刊日本語』取材
- 9月 3日 昼食ギャザリング
- 9月 6日 かわら版第2号発行
- 9月 14日 新入生歓迎ティーパーティー
&町内ドライブ
- 9月 15日 新入生歓迎バーベキュー
- 9月 20日 国際大学新入生オリエン
テーションに参加
- 9月 22日 稲刈り体験ツアー(守門・
渡辺宅)
- 9月 25日 新潟県国際交流課より視察
- 9月 26日 第6回運営委員会
- 9月 27日 母国紹介9 (ガーナ)



夢・つ・く・す・対・談

「地域の国際化」と「開かれた大学」—行政と大学との新たな連携を探る—

対談者:秋山武雄(大和町町長)・島野卓爾(国際大学学長)

司会

皆さま、お待たせいたしました。これから大和町の秋山町長と国際大学の島野学長による「夢つくす対談」を始めたいと思います。

私たちは昨年、夢つくすを設立するために(財)中島国際交流財団の「留学生地域交流支援事業」に応募し、3年間の継続事業として認めていただきました。私たちの申請は3つの点で評価されました。1点目は、留学生の生活支援を充実させるために行政と大学、そして地域との連携体制を整えるという視点が明確だったこと、2点目は、留学生支援にとどまらず地域に暮らす外国人も視野に入れていたこと、そして、3点目は、地域全体の多文化化に貢献する内容だったことです。

1点目の連携については、大和町の中で一番お忙しいお二人が今、こうしてステージの上にいることが、象徴しているように思います。行政と大学、そして地域の連携にとって、本日記念すべきスタートラインに立つことができました。限られた時間ですが、対談の中から行政と大学との連携、そして「夢つくす」との接点が見出せることを期待しております。

では、まず、お二人から自己紹介をいただきましょう。

秋山

皆さん、こんにちは。大和町町長の秋山と申します。私は、2期目に入ったばかりで、町長としてはまだ新人です。今日は大変大きな難しいテーマを頂戴し、どこまで自分の考えを述べられるか、いささか不安な点もありますが、精一杯努めてまいりたいと思います。

先ほど、うおぬま国際交流協会、いわゆる「夢つくす」の設立総会が無事終了されたとのこと、心からお祝い申し上げます。会の目的がいくつか掲げられています。なかでも「多文化共生社会に貢献したい」という部分に感銘を受けております。

今日は、大和町のおかれております立場などをお話させていただき、ご理解いただければと考えています。よろしくお願いいたします。

島野

島野でございます。私は今、学長をしております、学長としては2年半、3年近くになります。秋山町長はご遠慮なさりながらお話されましたが、秋山町長は、私どもの大学の理事も兼ねておられて、お礼を申し上げなければなりません。

先般、国際大学は開学20周年を祝いました。大学は洋の東西を問わず開かれたものです。しかし、夢つくすが構想しているようなレベルで言うと、国際大学の地元に対する取り組みは不十分であったと思います。夢つくすの設立は、大和町にいる多くの人的資源を活用する一つの大きなきっかけになるでしょう。この地域にある人的資源は相当将来性があるという自信と誇り、期待をもって、夢つくすを共に守り育てていきたいと思っております。今日を出発点として、新たな関係を模索していきましょう。

司会

ありがとうございました。島野学長から今日を出発点としてというご発言がありましたが、国際大学は1982年に設立されました。その頃から、私たちは「国際化」という言葉を頻りに聞くようになります。その後、「国際理解」という言葉も良く聞かれるようになります。今年から本格的に始まった「総合的な学習」の時間では、ほとんどの小中学校が「国際理解」を課題の一つに掲げています。でも、あらためて「国際化」あるいは「国際理解」がなぜ必要かと問われると、答え方が難しいですね。言葉が一人歩きしてきたような印象を受けます。

島野先生が初めて「国際化」を意識されたのはどんなときでしたか。島野

この質問にお答えすると年がばれちゃいますね。私は今から50年前に船でヨーロッパへ渡り留学生生活を経験しました。台湾から始まって、香港、シンガポール、バンコク、シンガポール、そしてペナンを通過してインド洋を通り、アレキサンドリア、地中海、そして昨年サミットが開催されたジェノバから上陸しました。そこからは汽車の旅です。ミラノ、チューリッヒ、バーゼルを通過してフランクフルト、さらに北のキールが留学先でした。汽車の中では最初、イタリア語しか聞こえてきません。次はフランス語、そして最後はドイツ語ばかりになる。これは大変なことだと思いました。でもこのなかでこれから生活していくんだと自分に言い聞かせました。それが私の初めての海外体験でした。

先ほど留学生がスピーチのなかで話していたように、留学生は日本というイメージしていますから、浦佐に降り立つとびっくりします。異文化に接触したときは、誰でも最初はショックを受けます。ショックを受けないほうがおかしい。

そういう意味で、国際交流のはじまりは文化ショックに始まると思います。でもそれはごく自然なことです。そのショックをどのように消化できるかどうか、それが大切だと思います。

司会

島野先生は、50年も前にドイツ留学をなさったとのことですが、一般の日本人の留学や、海外旅行が急増するのは1985年のプラザ合意以降のことではないかと思います。その頃から、行政が「国際化」を政策課題にあげるようになります。秋山町長、行政の立場から、「国際化」という課題が出てきた背景について、お話しいただけますでしょうか。

秋山

私は留学経験はありませんが、今から20年程前に、アメリカ、カナダへ視察、勘違いされては困るのですが、これは遊びではなく本当に勉強に行ったのです。この際、国際化、国際理解を深めてこようと勢い込んで出かけた。ところが最初に降り立ったケネディ空港で、入国審査の担当者から矢継ぎ早に英語で質問されて、何を言われているのかさっぱり分からず、最後に「観光ですか」と日本語で言われてしまいました。このとき初めて、これからは語学力が必要だということを感じさせられました。10日程の日程でしたが、最初につまずいたので、ずっとそのことが頭から離れませんでした。

そういうことを踏まえて、私たちは国際化、ということばを安易に使いすぎないように思います。一度や二度の海外旅行で国際理解などできません。「多文化共生社会」という、人々がさまざまな文化の違いを認め合って共に暮らしていく社会にするためには、自分の文化ややり方を相手に押し付ける、日本にきたら日本のやり方に従えということではだめでしょう。私は無理に日本の生活様式を押し付けるのではなく、相手のやり方を学ぶ姿勢も大切だと思います。相手を理解しようとするところから出発すること。そこから国際化、





国際理解が始まると思います。

大和町には国際大学という立派な資産、財産があります。しかしながら、大和町の国際化はそれほど進んでいません。大学からは学生さんを含めている声をかけてもらっていますが、それに答えられていないというジレンマがあります。積極的な体制がないということがありましたが、大和町には夢っくすもできました。これから町民と大学との連携を考える中で、大和町の国際化を進めていきたいと考えています。

司会

秋山町長から、国際化はまずお互いの違いを認め合って知り合うところから始めるとまとめていただきました。では、ここから具体的な話に移りたいと思います。

これは大和町の中期計画です。この中に大和町を「日本一の国際交流の町」にしたいという提言が盛り込まれています。実はそれを読んで私はわくわくいたしました。ひょっとしたら実現できそうなこの目標に向かって、私たち夢っくす、そして大和町と国際大学、そしてこれまでさまざまな活動をなさってきた国際交流団体や個人の方々が協力し合えないだろうかと考えております。

何を持って日本一というのかという難しさはありますが、何か一つこれだけはすごいぞというものをもつことによって他のこともうまくいく。これは、教育や人づくり、地域づくりにも共通しているように思います。

ここからは、「大和町を日本一の国際交流の町にする」、これをテーマにお話を進めたいと思います。まず、秋山町長からこの計画の概要と、国際大学に期待していること、要望などについてお話いただけますでしょうか。

秋山

この計画の策定に対する考え方を述べたいと思います。総合計画はこれから10年間どういう町づくりを進めていくのかという憲法です。これまで作られた4次の総合計画はどちらかというと行政に携わる職員が骨子を作ってきました。私は1期目から、町民主体の町づくりを政治姿勢に掲げてきました。この総合計画も、できるだけ町民の声を反映したものにしようという姿勢で取り組んできました。まず、町民が何を考えているのか、期待しているのかを、アンケートや座談会を通じて吸い上げました。

そのなかに、国際化や国際交流に対する意見、提言が多く寄せられました。どんなことが挙げられているのか紹介しましょう。まず、せっかくある国際大学の学生さんとの交流を進めて欲しい、それから、日本一の国際交流の町づくりを目指すべきだということ、これからの国際化に対応するように外国語教育の充実、教育文化を通じた国際交流、民間国際交流団体の育成、これらが主な国際交流に関する提言です。

実際にどんなことをやっていくのかというと、留学生のホームステイ、大学あるいは町が企画する行事を通じた交流、町民の視野を広げるための海外研修制度、国際交流セミナーの開催、国際交流団体の支援などです。これらをひとつひとつ実行することによって、大和町民の国際的な視野を広げていきたいと思っています。

大学に対しての要望ということでは、今のところ特別ありません。一つだけ申し上げますと、学生が勉強する場ですからしょうがないのですが、開かれた大学の観点から、大学をもう少し気楽に町民に開放していただければと感じております。

司会

ありがとうございます。島野学長、開かれた大学を目指すといえながなかなか大学に視察へ行くこともままならないというお話がありました。その点、いかがでしょうか。

島野

「開かれた大学」は当然です。ただ、突然来られても十分な対応ができないことはあります。したがって、事前に3つくらいの候補日をあげていただき、こういうことを知りたい、こういうことを見たい、話したいということをおっしゃってください。今度は夢っくすことができましたので今までよりずっと交流が頻繁になるのではないかと思います。

「日本一の国際交流の町づくり」と夢っくすについて考えるとき、参考になるかもしれませんので、2000年11月に経済企画庁、今の

総理府が発表した国民生活白書について少し紹介します。その主題は「ボランティアが深める好縁」というものです。簡単にいいますと、ボランティアはお互いの縁を深めるという機能があるということです。夢っくすも一つのボランティア活動だと思いますが、そのボランティア活動が何をもたらすかという、1つは職縁を超えたつながり、2つ目は、ボランティアのサービスは他が提供するものより質が高いということ、そして3つ目は地域の連携を強めるということです。



結論じみたことを言いますが、夢っくすは肩肘をはった活動ではなく、人とつき合うという感覚で国際交流をはじめられたらいい。普段着で、外国人だからということで、ナショナリティーが違うということで別に特別にすることはないと私は思っています。夢っくすができただけですが、ボランティアの形は千差万別、いろいろなやり方があります。いろいろなやり方を探していくことが、夢っくすの発展につながると思います。

司会

ありがとうございます。お二人のお話を伺っていて少し補足させていただきたいと思っております。実は、町の方々には大学の授業がどうなっているのか、学生たちがどんな風に暮らしているのかといった情報が届いていない、そこから視察を申し込んでなかなか受けてくれないという不満が出てくるのだと思います。これまでは、こうした大学側の情報と地域の方々との情報交換をする仕組みが弱かったのではないのでしょうか。今後、夢っくすの一つの媒体機能を果たせるようになれば、双方が気持ちよく交流できるようになると思います。

もっとお話を伺いたいのですが、予定の時間が近づいております。最後に、夢っくすへの期待を含めてご発言のまとめをお願いいたします。

秋山

これからの国際交流は行政主導ではうまく行かないだろうと思います。夢っくすのような民間団体が、草の根の活動を通じて魚沼地域の国際化や異文化理解の促進に果たす役割に期待しております。そのために、国際大学という財産を生かして今日のテーマであります「日本一の国際交流の町づくり」のために、夢っくすの皆さんにリーダーシップを取っていただきたい。そしてその輪がひろがり一日でも半年でも早く実現できることを願っています。大和町も国際大学の皆さんと一緒に国際交流に取り組んでいくつもりです。こうした機会をいただいたことに感謝を申し上げ、私のまとめといたします。ありがとうございました。

島野

ひとことでいうと、体が動く、心が伝わる、これが大切だと思います。夢っくすは身体を動かし、心を伝え合う、そういう会になって欲しいと思います。

司会

全国には3000を超える自治体がありますが、大学というのはほとんど都市部に立地しています。大学院大学、しかも8割は留学生という日本の高等教育機関の国際化をリードする大学を持つのは大和町、ただ一つだといってよいと思います。この地域資源とそこに集まる人材と地域とを結び付け、一緒に「魅力ある町づくり」ができないだろうか、これが「夢っくす」をつくらうと漠然と考えていたときの私たちの希望でした。多様な人々が集い、そして協力し合うためには、ある種の「仕組み」が必要です。「夢っくす」がその仕組みになればと考えています。

本日お集まりの皆さんの中に、私たちと一緒に活動してみたいという方は、是非「夢っくす」にご入会ください。最後にご多忙の中、快くこの対談をお引き受けくださった、秋山町長と島野学長に大きな拍手をお願いたします。ありがとうございました。これで「夢っくす」対談を終わります。



ホストファミリー 募集中

～ホームステイ受け入れ家庭に登録しませんか～
留学生(外国人)のホームステイやホームビジット(短時間の家庭訪問)の受け入れをしてくださるご家庭の登録制度を設けました。

もちろん、登録したからといって毎回受け入れの義務はありません。

- ・外国の人と交流したり友達になりたい方...
- ・自宅で話をしたい方...
- ・英会話をしたいが大勢の前では恥ずかしい方...

などなど登録の目的は問いません。また、実際の受け入れは、ご登録いただいた家庭のご都合やご意向を聞いて決めていきます。ご興味のある方には、大和町と夢っくすが共同で作成した「ホストファミリーのための受け入れの手引き」をお送りいたしますので、事務局までご連絡ください。

ホームステイは家族と楽しむ 国際交流

小幡美智代

「今日の夕食にアメリカ人が来るよ」、今から5年前家族を不安と期待に陥れた私のひと言でした。生意気盛りの息子はとてもシャイ！食卓を囲む中で考え出した作戦は百人一首の日米対戦。ところが日本組みは全敗。

二回目になるとシャイな息子も本領発揮で、ちゃっかり英語の宿題を教えてもらい、味をしめたのか「次のどこの国の人？」と聞くようになった。主人はと言えば、お正月にきた女子学生の手料理にえらく感動し、褒めちぎりで話も弾んだ。そして、海外旅行大好きおじいちゃんは、旅行アルバムを引っ張り出しチンプンカンプンの説明を延々と。

こんな具合で、今や何力国の人たちがわが家の食卓を囲んだことや・・・家族全員の小さな国際交流はまだまだ続いている。生意気でシャイな息子も今や海外で頑張っている。

皆さまも、ホストファミリーはじめてみませんか？

日本語交流員

奮戦記

大平悦子



「ハズメマステ。ザックデス。ナイジェリアカラ、キマスタ。ドゾ、ヨロスク。」

「こちらこそ、どうぞよろしく。」

7月末から、大学の夏休みに母国へ帰らずキャンパス内に残っている学生さんと、その家族を対象に、日本語講座が始まりました。みなさん日本へ来て1年以上たっているものの、日本人とはほとんど接する機会がないので、日本語は、全くと言っていいほど話せません。

一方、この方たちに日本語を教える、日本語交流員の私たちは、「日本語の教え方講座」で、日本語を外国語としてとらえ、教え方の基礎を少しは勉強したものの、みんなが初めての経験です。しかも、英語にも自信がありません。

「とにかく始めてみましょう。」受講生5,6人に、日本

語交流員4,5人のトライアルクラスです。初対面の挨拶の練習から始まって、回を重ね、「～をしました。」という過去形の表現まで勉強しました。インドネシア、フィリピン、ナイジェリア、ケニア、...などいろいろな国の人がいます。私たち日本人が、なにげなく発している音が、発音しにくい人もいますから、何度も練習します。学習意欲旺盛な受講生からは、次々と質問が出て、どう答えていいか困ることがあります。そんな時は、他の日本語交流員どうし助け合って進めています。日本語を教えてみて、改めて日本語の難しさを感じています。

先日、国際大学の職員の方から、嬉しいお話を伺いました。日本語講座で習った日本語を使ってみたい、わざわざ日本人職員のところへやってくる学生さんがいるそうです。「イマ、ナンジデスカ?」「4時です。」「アリガトゴザイマス。」たったこれだけでも、日本語会話大成功です。とても嬉しそうで、性格まで明るくなったみたい、ということでした。

彼らは今まで、日本語を勉強してみたい、日本人と接してみたいと思っけていても、その機会がなかったんですね。夢っくすの日本語講座が、少しでもそんな外国人の方たちのお役に立てれば、お互いにハッピー-だなぁと思います。



夢っくす会員

だだいま
114名

大和町	46名	塩沢町	8名	長岡市	1名
六日町	23名	湯沢町	2名	十日町市	1名
小出町	18名	堀之内町	1名	広神村	1名
湯之谷村	11名	守門村	1名	川西町	1名

夢っくす会員の 海外レポート

「シンガポールとマレーシア旅行」

鈴木なつ子

パスポートを取ったのは、ちょうど20年ぶりとなり、娘時代とおばさんの写真になっておりました。娘時代は、海外に出ることそのものが、自分の世界観を広げてくれたように思いますが、おばさんは出るまでが大変です。なにせ、背負っている「しがらみ」が大きくて……。やっとの思いで出発した今回の旅行でした。

7年前の英語教室の教師、国際大学の学生さんだったタイ・シュービーさんとの出会いがきっかけでした。(ちなみに、その時の教室仲間、皆さんが英語を自分のものとしておりますが、私はいまだに成長なし)。東京に就職し、その後シンガポールの支社に戻ると聞いた時から、「みんなでシンガポールへ行きたいね」と話していたのですが、私には現実感のないものでした。家事や仕事のこと等で考えられないものと思っていましたから……。井口さんや坂西さんからの誘いと、子どもたちの後押しでやっと実現することができました。

シンガポールにある彼女のオフィスにおじゃましたり、夜のシンガポールを浴衣姿で歩いたり、食べ歩きをしたりとカラッポになって楽しんできました。マレーシアのマラッカでは、古い仏教寺院を見学している最中に、近くからコーランが聞こえてきて、日本の日常では考えられない事実が驚いたりもしました。

撮った写真の半分以上が食べているものばかりでしたが、この夏の暑さにもかかわらず体重には全く影響なく、元気に秋を迎えているこの頃です。



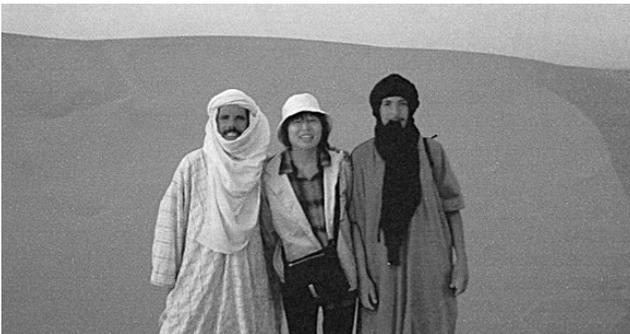
「一見の価値ありモロッコ」

猪俣真紀子

青い空と青い海、満天の星が広がる静まりかえった砂漠と人のごったがえすフェズのメディナ(旧市街)。

車を走らせるたびに荒涼とした大地と町が交互に現れ、山の上には白い雲も見えます。車とロバが同じ道を走り、バスの上には羊が乗っています。

日本から遠く離れたモロッコは一見の価値あり。お薦めです。



夢っくすサロン日程

毎週火・金曜日の11:00～15:00と19:00～21:00にサロンを開いています。お気軽にお立ち寄りください。サロンでは留学生との「日本語会話」を楽しみます。

サロンでは、月に1回のペースで留学生による母国紹介と、夢っくす会員が留学生や外国人向けに茶道教室と華道教室を開催しています。

サロンならびに夢っくすのイベント最新情報は、会員向け月刊「かわら版」とホームページでお知らせしておりますので、ご確認ください。

夢っくす活動予定表 10月～12月

大和町は今年、「帰国・外国人児童生徒とともに進める教育の国際化推進地域事業」の指定を受けました。下記に掲載した国際理解教育研修と日本語指導研修会はその事業の助成を受けて大和町が主催するものです。

夢っくすは、大和町で学ぶ外国人児童・生徒の日本語教育や、そうした活動に参加されるボランティアの方々の異文化理解教育や外国語学習支援、講師依頼などで協力しています。また、夢っくすでは、翻訳プロジェクト第2弾として小学校の通知表の英訳に取り組んでいますが、こうした活動を通じて行政と夢っくすとの連携を深めていきたいと考えています。

10月	* 大和町主催「国際理解教育研修会」 10月12日(土)午後1時半～4時半 於:大和町役場研修室 「国際理解教育って何? - そのねらいと実践への基本課題」 講師:山西優二先生(早稲田大学教授)
	母国紹介「ブラジル」 10月18日(金)午後7時～8時半 於:夢っくすサロン 講師:ジュリアノさん
	英文ポスター作成講座 10月21日(月)午後7時～9時 於:大和町公民館 講師:シャイラさん
11月	* 大和町主催「日本語指導研修会」全4講座 講師は武蔵野市国際交流協会日本語教室を担当している宮崎妙子先生と河北祐子先生です。 11月29日 14:00-17:15 於:大和町役場3階大会議室 「子どもとの関係づくりワークショップ」 「学校における日本語支援活動」 12月6日14:00-17:15 於:大和町役場3階大会議室 「子どもたちの学習支援の課題と地域ネットワーク」 「学習に役立つアクティビティとフィードバック」
	夢っくす研修会 11月30日(土)午前10時～12時 於:大和町公民館 「ボランティア活動の基礎 参加と学び、そして共感」 講師:武蔵野市国際交流協会コーディネーター 杉澤経子さん
12月	夢っくすバスツアー 11月3日(日)留学生と訪ねる世界文化遺産・日光一日バスツアー 参加費:大人3,000円・子ども2,000円 募集人員:夢っくす会員17名・留学生/外国人38名
	母国紹介「タイ」 11月8日(金)午後7時～8時半 於:夢っくすサロン 講師:ターウォンさん
通常サロンは12月13日まで。 留学生向けの日本のお正月料理教室などを計画予定で	

昼の部

日 時	10月17日～12月5日 毎週木曜 13:00～14:30 全8回
会 場	働く婦人の家 浦佐駅西口近く
講 師	トレシーさん(国際大学学生)
募 集 人 員	最小開講人数 7人
受 講 料	3,000円
教 科 書 代	2,990円

夜の部

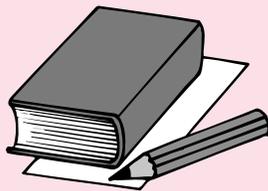
日 時	10月16日～12月4日 毎週水曜日 19:30～21:00 全8回
会 場	働く婦人の家 浦佐駅西口 近く
講 師	武藤崇子さん/大平智子さん
募 集 人 員	最小開講人数 7人
受 講 料	3,000円
教 科 書 代	2,990円

夢つくす英会話教室は年間開催する予定で、共通教材として『New Interchange』(CD付き)をご購入いただきます。講座初日に教室内で販売いたします。

**「日本語の教え方講座」
受講者募集**

(株)アルクの通信講座「日本語の教え方・短期実践講座」(受講期間6か月、受講料39,000円)を修了し、日本語交流員に登録して3ヶ月(週1回、1時間半)を1期とし、年2回以上レッスンを担当することを条件に受講料の一部29,000円を助成します。これまでに31名の方が受講し、すでに約半数の方が日本語講座を担当しています。

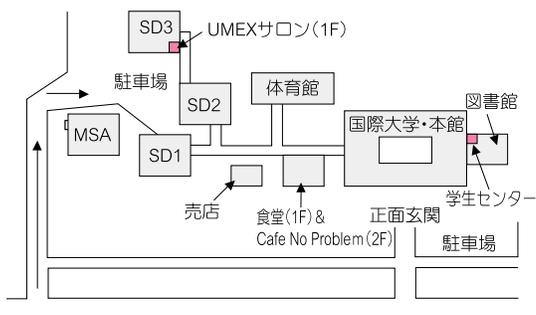
12月より受講を開始する第3期受講生を10名募集します。申込書は11月号のかわら版に同封しますので奮ってご応募ください。応募者多数の場合は多言語部会で選考いたします。



英文ポスター作成講座

日 時	10月21日(月)1回 19:00～21:00
講 師	シャイラさん
募 集 人 員	10名程度
受 講 料	500円
会 場	雪国おくにじまん会館 (北越銀行大和支店向かい)

いくつかのサンプルに基づき、英文イベントポスターを作成する講座です。イベント部会では、個人や小さなグループの自主企画イベントを支援していますが、そのためには参加者募集ポスターの作成がかかせません。初めての方大歓迎。この機会にチャレンジしてみませんか。



★UMEXへの入会は随時受け付けています。UMEXにご関心のある方は、電話またはファックスで事務局まで資料をご請求ください。



うおぬま国際交流協会

〒949-7277
新潟県南魚沼郡大和町大字穴地新田777番地
国際大学内 UMEX事務局国際交流サロン(1F)
TEL: 0257-79-1439/0257-79-1520
FAX: 0257-79-1180